

NC 国内動物園飼育下のオランウータンの人工繁殖 U 計画へのヒト生殖医療の応用



ライフサイエンス

Keywords

生殖免疫学、不育症、プロテアーゼ、学びなおし

オランウータンと研究者



尾崎 康彦 教授 (診療担当)

所属

医学研究科 高度医療教育研究センター

専門分野

生殖免疫学、周産期学、不育症、リカレント教育

所属学会

日本産科婦人科学会、日本病態プロテアーゼ学会、ALSO Japan学会

HP

<http://www.med.nagoya-cu.ac.jp/obgyne.dir/index.html>

研究概要

本研究では人工授精を前提に雌の排卵期を確実に評価するため、発情ホルモン濃度測定と視診（腔壁、子宮腔部、卵巢触診、および腔分泌物の観察）を行った。また超音波診断法を施行し、発情ホルモン濃度ピーク日の生殖器情報の蓄積を行った。その結果、雌オランウータンの人工授精適期（排卵期）における雌生殖器の状態を明らかにすることができた。それらはヒトと相同性があることが認められた。

関連する論文

Kinoshita K, Sano Y, Takai A, Shimizu M, Kobayashi T, Ouchi A, Kuze N, Inoue-Murayama M, Idani G, Okamoto M, Ozaki Y. Urinary sex steroid hormone and placental leucine Aminopeptidase concentration differences between live births and stillbirth of Bornean orangutans (*Pongo pygmaeus*), *Journal of Medical Primatology*, 46 (1), 3-8, 2017.

今後の展望／実用化イメージ

本研究を推進することでヒト生殖医療をオランウータンに応用することにより、全世界の動物園飼育下のオランウータン（のみならず動物園の大型類人猿）の人工繁殖計画に寄与することを目的とする。

読売新聞（中部版：2015年5月1日）



読売新聞（千葉版：2015年3月6日）

オランウータン 人工授精へ



問い合わせ

産学官共創イノベーションセンター
 (桜山キャンパス本部棟2階/事務局学術課内)
 〒467-8601 名古屋市瑞穂区瑞穂町字川澄1番地
 (名古屋市営地下鉄桜通線「桜山」駅③出口すぐ)
 ☎ 052-853-8309 FAX 052-841-0261
 ✉ ncu-innovation@sec.nagoya-cu.ac.jp



研究者からのメッセージ

現代の医学や医療は数多くの貴重な動物の命の犠牲のもとに発展して来た。追悼と感謝の気持ちと共に彼らにヒューマンサイエンスを還元すること（“Human Feedback”）が本研究のメインコンセプトである。